

平成20年度及び平成21年度 研究成果実用化促進事業実施課題 事後評価結果

課題名	ジャガイモシストセンチュウの簡易土壌検診技術の確立				
事業実施主体名	シストセンチュウ検診技術 地域農業研究・普及協議会				
評価得点(平均)	① 5.00	② 2.50	③ 2.50	④ 9.00	合計 19.00
所見	<p>研究計画は概ね順調に進行し、簡易検診技術が完成レベルになっており、当初の目標を達成できた。今後は、シストセンチュウの被害を低減するために、検診結果に基づく抵抗性品種の導入を進めるなど、戦略的に実施することを期待する。</p>				

課題名	加工・業務用ホウレンソウの低コスト生産体系の確立				
事業実施主体名	SPS関東地域農業研究・普及協議会				
評価得点(平均)	① 6.00	② 2.75	③ 2.25	④ 7.00	合計 18.00
所見	<p>研究計画は概ね順調に進行し、当初の目標は達成された。生産から収穫、さらに流通までのプロセスを考慮し、実用化までの道筋をつけたことを評価できる。今後は実需者側から生産物の評価を取り入れ、事業化に向けた検討が望まれる。また、ホウレンソウだけでなく、他の作目へ拡大を期待する。</p>				

課題名	トウガラシ用台木品種によるパプリカの土壌病害回避技術の確立				
事業実施主体名	山形県庄内地域農業研究・普及協議会				
評価得点(平均)	① 5.00	② 2.25	③ 2.00	④ 10.00	合計 19.25
所見	<p>研究の計画は概ね順調に進行されており、目標も達成できた。また、地域において順調に技術の導入が進んでいる点が高く評価できる。今後は、さらなる安定生産に向けた取組みが期待される。</p>				

得点の凡例

- ① 研究計画が予定どおりに進捗したか(進捗性) : 6点満点
- ② 発現した成果が投入された資金に見合ったものであったか(効率性) : 3点満点
- ③ 成果を生むに十分な研究実施体制であったか(有効性) : 3点満点
- ④ 生み出された成果が生産現場に確実に普及されたか(妥当性) : 10点満点 →合計22点満点

平成20年度及び平成21年度 研究成果実用化促進事業実施課題 事後評価結果

課題名	東海地域の露地キャベツ作における「うね内部分施用技術」の確立				
事業実施主体名	東海地域「うね内部分施用技術」普及協議会				
評価得点(平均)	① 4.00	② 2.00	③ 2.00	④ 4.50	合計 12.50
所見	<p>事業で使用した機器の耐久性が不足していたが、地域の土壌条件に適応した機器の改良や、地域の作型に応じた施肥方法を引き続き検討し、今後は一連の技術体系として普及していくことを期待したい。</p>				

課題名	雪冷熱利用によるイチゴの夏期高温対策と安定生産				
事業実施主体名	置賜地域農業研究・普及協議会				
評価得点(平均)	① 4.00	② 1.75	③ 1.75	④ 3.75	合計 11.25
所見	<p>研究としての取組みは評価できる。導入できる地域は限定されているものの、法人等の導入先に合わせた技術の体系化や初期投資の低減、また、総合的な経営評価についても引き続き検討し、普及に向けた体制を充実させることが必要である。</p>				

課題名	大規模畑作地帯における加工・業務用キャベツ低コスト調整システムの確立				
事業実施主体名	鹿追町営農指導対策協議会				
評価得点(平均)	① 4.00	② 1.75	③ 2.00	④ 4.50	合計 12.25
所見	<p>機械メーカーとも連携し、初期投資の低減や、収穫機や調整機の精度を高くするための検討が必要である。</p>				

得点の凡例

- ① 研究計画が予定どおりに進捗したか(進捗性)：6点満点
- ② 発現した成果が投入された資金に見合ったものであったか(効率性)：3点満点
- ③ 成果を生むに十分な研究実施体制であったか(有効性)：3点満点
- ④ 生み出された成果が生産現場に確実に普及されたか(妥当性)：10点満点 →合計22点満点

平成20年度及び平成21年度 研究成果実用化促進事業実施課題 事後評価結果

課題名	低段多段組合せ栽培によるトマト安定多収栽培体系の開発と実証				
事業実施主体名	SHP関東地域農業研究・普及協議会				
評価得点(平均)	① 4.00	② 2.25	③ 2.25	④ 8.00	合計 16.50
所見	<p>我が国のトマトの生産性を大幅に向上させる画期的な技術となることが期待でき、当初の目標を十分達成した。今後、さらに実用化を進めるために、収量の安定、品質の向上などの問題に踏み込んだ検討が必要である。また、導入した農家や法人等の作業人員の配置やスキルの向上など現実的な経営面の問題についても検討の余地がある。</p>				

課題名	単味の食品残さを活用した発酵リキッドフィーディング技術の確立				
事業実施主体名	豊川宝飯地域農業研究・普及協議会				
評価得点(平均)	① 4.50	② 1.50	③ 2.25	④ 3.75	合計 12.00
所見	<p>研究の計画は概ね順調に進行された。他の地域にも活用の幅を広げるための取組みが期待される。</p>				

課題名	「タカナリ」等多収稲品種の低コスト栽培・米粉利用適性の確立				
事業実施主体名	新潟下越地域農業研究・普及協議会				
評価得点(平均)	① 2.50	② 0.75	③ 1.25	④ 0.75	合計 5.25
所見	<p>新潟県のコシヒカリBL対策の影響で、事業で使用した品種が使えず普及が見込めないことは致命的である。早急にこれに適応する新たな多収稲品種を選定し、事業内容を継続して実施していただきたい。</p>				

得点の凡例

- ① 研究計画が予定どおりに進捗したか(進捗性) : 6点満点
- ② 発現した成果が投入された資金に見合ったものであったか(効率性) : 3点満点
- ③ 成果を生むに十分な研究実施体制であったか(有効性) : 3点満点
- ④ 生み出された成果が生産現場に確実に普及されたか(妥当性) : 10点満点 →合計22点満点